ユーザーズ・マニュアル

_KEYLAB ESSENTIAL MK3



スペシャル・サンクス

ディレクション			
Frédéric Brun	Kevin Molcard		
開発			
Yannick Bellance (lead)	Florian Rameau (lead)	Valentin Foare	Thibault Sénac
Nicolas Dubois (lead)	Timothée Béhéty	Farès Mezdour	
生産			
Jérôme Blanc	Antonio Eiras	Lionel Ferragut	Nadine Lantheaume
品質			
Emilie Jacuszin			
品質保証			
Julien Viannenc (Lead)	Aurélien Mortha	Nicolas Stermann	
Bastien Hervieux	Nicolas Naudin		
マニュアル			
Sven Bornemark	Ángel Domínguez	Charlotte Métais	
Jimmy Michon	Minoru Koike	Holger Steinbrink	
ベータ・テスト			
Charles Capsis IV	Andrew Henderson	Terry Marsden	TJ Trifeletti
Richard Courtel	Are Leistad	Paolo Apollo Negri	
Adrian Dybowski	Andrew Macaulay	Grégory Roudgé	
© ARTURIA SA – 2023 26 avenue Jean Kuntz 38330 Montbonnot-Sa FRANCE www.arturia.com	– All rights reserved. mann int-Martin		

本マニュアルに記載の情報は本製品の発売時点の仕様のものです。本マニュアルの情報は予告なく変更さ れる場合があり、それについて Arturia は何ら責任を負いません。本マニュアルに記載されているソフト ウェアは、使用許諾契約書または秘密保持契約書に基づき提供されています。ソフトウェアの使用許諾契 約には、その合法的な使用に関する条件が規定されています。本製品を購入されたお客様の個人的な使 用以外の目的で本マニュアルの一部、または全部を Arturia S.A. の明確な書面による許可なく再配布する ことはできません。

本マニュアルに記載の製品名、ロゴ、企業名はそれぞれの所有者に帰属する商標または登録商標です。

Product version: 1.0.0

Revision date: 29 June 2023

Arturia KeyLab Essential mk3 を お買い上げいただき誠にありがとうございます!

音楽の旅へ出発

KeyLab Essential は、ほぼすべてのソフトウェアインストゥルメントや DAW のパワーを引き出すことが できるクラスコンプライアントのユニバーサル MIDI コントローラーです。音楽制作の作業効率を高める ことができるよう設計されており、コンピュータのキーボードやマウスを使用する時間を低減でき、 Arturia Analog Lab V とのシームレスな統合が可能です。

本マニュアルでは KeyLab Essential の各種機能と一般的な使用法について、さらに本機のテクニカルな 側面についても詳しくご紹介しますので、本機の先進的機能をフル活用することができます。

本機のパッケージ内容は、次の通りです:

- KeyLab Essential コントローラーキーボード本体
- USB ケーブル
- Analog Lab V ライセンス (ダウンロード用)
- Ableton Live Lite
- Native Instruments The Gentleman
- LoopCloud
- UVI Model D
- Melodics

製品登録のための情報をなくさないようにしてください! クイックスタートガイドに記載のシリアルナンバーとアクティベーションコードは、ソフトウェアをアンロックする際に必要です。

製品登録をお忘れなく! 製品登録の手順は少々退屈かも知れませんが、Analog Lab V のダウンロードや アクティベーションも可能になりますし、Arturia MIDI Control Center も入手できますので、その価値は 大いにあります。

使用上のご注意

仕様は予告なく変更することがあります: 本マニュアルに記載の各種情報は、本マニュアル制作時には 正確なものですが、本機の仕様は改良等のために予告なく変更することがあります。

重要:本機とそのソフトウェアをアンプやヘッドフォン、スピーカーで音を出す際には、難聴などの聴 覚障害を引き起こす可能性があるほどの大音量に設定できる場合があります。そのような大音量や不快な ほどの音量で長時間にわたる作業をしないでください。

難聴などの聴力低下やや耳鳴りなどが生じた場合は、直ちに医師の診断を受けてください。

注意: 知識の不足による誤った操作から発生する問題に対してのサポートは保証の対象外となり、料金 が発生します。まずこのマニュアルを熟読し、販売店とご相談の上、サポートを要請することをお勧めし ます。

注意事項としては以下のものを含みますが、これらに限定されるものではありません:

- 1. 取扱説明書をよくお読みになり、理解してください。
- 2. 本機に表示されている指示に従ってください。
- 3. 本機のお手入れの際は、まず電源や USB 等全てのケーブルを外してください。また、清掃の 際は、乾いた柔らかい布を使用してください。ガソリン、アルコール、アセトン、テレピン 油その他有機溶剤は使用しないでください。液体クリーナー、スプレー洗剤、濡れ布巾など も使用しないでください。
- 本機を浴室やキッチンシンク、水泳プールまたはそれらに準じた水の近くや多湿な場所で使 用しないでください。
- 5. 本機を落下の危険性がある不安定な場所に設置しないでください。
- 6. 本機の上に重量物を置かないでください。また、本機の開口部や通気孔等を塞がないでください。これらは、過熱から本機を守るための空気の循環用のものです。また、本機を発熱体の近くや、風通しの悪い場所に設置しないでください。
- 7. 本機を開けたり異物を入れないでください。火災や感電の原因になることがあります。
- 8. いかなる液体も本機にこぼさないでください。
- 修理の際は正規サービスセンターにご依頼ください。お客様ご自身で蓋やカバーを開けると 保証の対象外となり、正規の手順に依らない組み立てや動作試験を行うと感電や別の故障の 原因になる場合があります。
- 10. 雷の発生時には本機を使用しないでください。距離が離れていても感電の恐れがあります。
- 11. 本機を直射日光に当てないでください。
- 12. ガス漏れが発生している場所付近で本機を使用しないでください。
- 13. Arturia は本製品の不適当な使用方法に起因する故障、破損、データ損失に責任を負いません。

もくじ

1. KeyLab Essential へようこそ	2
1.1. KeyLab Essential とは?	2
1.2. KeyLab Essential 主な特長	4
2. インストールする	5
3. ハードウェアの概要	6
3.1. KeyLab Essential を接続する	6
3.2. フロントパネル	6
3.3. リアパネル	8
3.4. 設定値などの表示	8
4. KeyLab Essential の操作と動作設定	9
4.1. Wheels - ホイール	9
4.2. MIDI チャンネル	9
4.3. Bank	10
4.4. Transpose –/+、Octave –/+	11
4.5. Pads - パッド	12
4.6. DAW コントロールセクション	13
4.6.1. DAW での MIDI 設定	
4.7. Prog	16
4.8. Part	17
4.8.1. スプリットポイントを設定する	17
4.8.2. パート1、パート2をエディットする	
	19
4 10 Chord $\Xi - \kappa$	20
4101 プリセットコードを演奏する	20
4.10.2 フードを作成する	
4.10.2. 4 T C (FRG) 0	
4.12 Arpoggistor	
4.12. Aipeggiatoi	
4.12.2. アルベンオエディットペーンに入る/抜ける	
4.12.3. アルペシエイターのエティット	
4.12.4. アルペシェイターのハラメーター	
4.13. Tap Tempo	
4.13.1. アルペジエイター、コードモード、スケールモード、ホールドモード	
4.14. ヴェガスモード	32
4.15. ファクトリーリセット	33
5. KeyLab Essential and Analog Lab V	34
5.1. 重要なポイント – すべては流動的なのです	34
5.2. オーディオと MIDI の設定	35
5.2.1. Analog Lab V MIDI Settings	35
5.3. プリセットのブラウジング	37
5.3.1. タイプ別にブラウジング	38
5.4. ノブとフェーダー	38
5.5. パッド	39
5.6. Controlling Parts in Analog Lab V - パートコントロール	39
5.6.1. Analog Lab V のパートを追加する	39
5.6.2. 既存のマルチプリセットをエディットする	40
5.6.3. パートメニュー内でのエディット	41
5.6.4. パートのコントロール	42
6. DAW Control	43
6.1. Custom Controlled DAWs - 対応 DAW	43
6.1.1. トランスポートコントロール	44
6.2. Mackie Control Universal で DAW をコントロールする	45
7. ソフトウェア・ライセンス契約	46
8. 規制関連情報	48
8.1. FCC	48
8.2. カナダ	
8.3. CE	48
8.4. ROHS	49

1. KEYLAB ESSENTIAL へようこそ

1.1. KeyLab Essential とは?



この度は KeyLab Essential mk3 をお買い上げいただき、誠にありがとうごさいます!

KeyLab Essential は、音楽制作のベストパートナーとなるように設計されています。ライブでもレコーディングでも、あるいはリハーサルやジャムでも、思い描いたサウンドに到達するには透明性とダイレクトな道筋が必要です。

KeyLab Essential は、軽量で使いやすい MIDI キーボードコントローラーですが、そのエレガントなルックスは決して侮れるようなものではありません一本機には、より高価なキーボードでなければ搭載されないような機能がふんだんに盛り込まれているのです。

KeyLab Essential は、音源モジュール (ハードウェアであろうとソフトウェアであろうと) を演奏できるだ けでなく、お使いの DAW の重要な機能もコントロールすることができます。これにより、音楽制作など の作業を加速できるのです!

Ableton Live や Apple Logic Pro、Bitwig Studio、Image-Line FL Studio、Steinberg Cubase といった主 要 DAW では、KeyLab Essential は自動的に認識されます。また、MCU/HUI プロトコルを使用すれば、ほ ぼすべての DAW を KeyLab Essential でコントロールできます。

本機のフロントパネルにあるトランスポートボタンで、DAW の再生や停止、録音などのトランスポート を操作でき、ノブでプラグインのパラメーターや DAW のトラックのパンニング、フェーダーで DAW の トラックのボリュームも調整できます。

キーボードを核とした音楽制作スタジオである KeyLab Essential には、数々の賞を受賞した V Collection からのビンテージからモダンまでの幅広いキーボードコレクションを擁し、2,000種類以上ものプリセットにアクセスできる Arturia Analog Lab V も付属しており、音作りや演奏をすぐに始められます。

灼熱のシンセリードや幽玄なストリングスパッドでも、ビンテージなアップライトピアノや複雑かつ刻々 と変化するサウンドスケープでも、KeyLab Essential ならライブやレコーディングに必要なものがすべて そろいます。音楽スタイルに合わせた "音のカクテル" のあらゆる材料がここにそろっているのです。 9個のエンコーダーノブと9本のフェーダーで Analog Lab V のパラメーターを操作して音作りをすること ができます。MIDI Control Center で設定をカスタマイズすることで、その他の V Collection インストゥ ルメントもこの方法でリモート的に操作できます。リアルタイムでの音素h区エディットはいつでも簡単 に行えます。

KeyLab Essential は49鍵モデルと61鍵モデルの2タイプがあり、どちらもシンセタイプのキーボードを搭載しています。8個のバックライト付きパフォーマンスパッドはベロシティ だけでなく プレッシャー (ア フタータッチ) にも対応しています。また、ピッチベンドとMod (モジュレーション) ホイールも当然なが ら装備しています。

49鍵、61鍵どちらのモデルもフロントパネルとリアパネルの構成は同一です。つまり、ボタンもノブも フェーダーも接続端子もすべて共通です。違いは鍵盤数と、61鍵モデルがボディサイズが少し大きいた め、フロントパネルのレイアウトにある程度の余裕があるだけです。

さらに、Arturia の **MIDI Control Center** (無償でダウンロードできます) ソフトウェアを使用すれば、 KeyLab Essential のノブやフェーダーなどのコントロール類とパラメーターとのマッピングを作成できま す。作成したマッピングはユーザープログラムにセーブでき、KeyLab Essential 本体から呼び出すことが できます。

I MIDI Control Center の詳細につきましては、MIDI Control Center のマニュアルをご覧ください。また、MIDI Control Center は Arturia ウェブサイトからダウンロードできます。



1.2. KeyLab Essential 主な特長

- 49鍵 / 61鍵 ベロシティ対応キーボードを搭載。
- 8個のベロシティ、プレッシャー対応 RGB バックライト付きパッドを装備。
- パッドには2つのバンクがあり、合計で16個分のパッドとして使用可能。
- カーソル移動などに使用できるクリッカブル・メインエンコーダーを装備。
- 視認性の高い大型ディスプレイを装備。
- 専用 DAW トランスポートボタンに加え、セーブ、クォンタイズ、アンドゥ、リドゥボタン を装備。
- 9個のエンコーダーノブと9本のフェーダーを装備。
- ピッチベンド、モジュレーションホイールを装備。
- ハンズフリー (またはフットフリー) でサステインができる Hold (ホールド) ボタン。
- フル機能のクラシックなシンセスタイルのアルペジエイターを搭載。
- コードを記憶してワンフィンガーで演奏できるコードプレイ機能を搭載。
- 正しいキーで調性を固定できるスケールモード機能を搭載。
- ホールド、アルペジエイター、コード、スケールの各機能は同時使用可能。
- オクターブ単位、半音単位でのトランスポーズ機能を搭載。
- USB-C バスパワー対応。
- MIDI メッセージは USB-C ポートと5ピン DIN MIDI アウトから送信可能。
- 6.3mm TRS ジャックのコントロール入力にはエクスプレッションペダルやフットスイッチ を接続でき、サステインやエクスプレッションなどのコントロールが可能。
- 付属ソフトウェア:
 - Arturia Analog Lab V
 - Ableton Live Lite
 - Native Instruments The Gentleman
 - UVI Grand Piano Model D
 - Melodics サブスクリプション
 - Loopcloud サブスクリプション
- USB-C → USB-A ケーブル付属

2. インストールする

KeyLab Essential を購入し、製品登録を済ませたあとに最初にすることは、ファームウェアのアップデートです。Arturia では、新機能の追加や動作向上などのファームウェアアップデートを随時行っています。

アップデートをするには、事前に **MIDI Control Center** (MCC) をダウンロードし、インストールする必要 があります。MCC は、Arturia ハードウェア製品のために設計された強力なソフトウェアで、Arturia ウ ェブサイトの Downloads & Manuals ページからダウンロードできます。

MCC をインストールしましたら、以下の手順で KeyLab Essential のファームウェアをアップデートします:

1. KeyLab Essential の製品ページ から最新のファームウェアをダウンロードします。

2. MIDI Control Center を起動します。

3. MIDI Control Center の Device のところで KeyLab Essential mk3 が選択されていることをご確認くだ さい。ファームウェアのバージョンが表示されているボックス部分をクリックします。



4. 表示されるダイアログボックスにある "Upgrade" をクリックし、ファームウェアファイルを保存する コンピュータ内の場所を指定します。このとき、4つのボタンがブルーに順番に点灯します。

5. 画面に表示される支持に従って作業を進めます。KeyLab Essential へのファームウェアのロードが完 了すると、KeyLab Essential が再起動して使用できる状態になります。

これで KeyLab Essential を使って Arturia Analog Lab V [p.34] など色々なバーチャルインストゥルメントをコントロールすることができます。

KeyLab Essential での MCC の使い方などの詳細につきましては、Arturia ウェブサイトの Downloads & Manuals ページの KeyLab Essential セクションにある専用マニュアルをご覧ください。

3. ハードウェアの概要

3.1. KeyLab Essential を接続する

まずは、Analog Lab V と MIDI Control Center をインストールし、製品登録とオーソライズ (アクティベ ーション) をしておくことをお勧めします。次に、KeyLab Essential を付属の USB ケーブルでお使いのコ ンピュータに接続します。接続することで KeyLab Essential の電源が入り、データを受信します。

MCC (MIDI Control Center) をダウンロードし、MCC で KeyLab Essential のカスタムドライバーをインス トールすることを強くお勧めします。Windows PC の場合、このドライバーがないと、お使いの PC で複 数の MIDI プロトコルを使用した MIDI メッセージを使用できなくなってしまいます。

3.2. フロントパネル

KeyLab Essential のフロントパネルの配置は、以下の通りです:



#	名称	内容
1.	ホイール [p.9]	ピッチベンドとモジュレーションホイールです。
2.	MIDI Ch ボタン	MIDI アウトのチャンネルを選択します。
3.	Bank ボタン	パッドのバンクAとBを切り替えます。
4.	Transp –/+ ボタン	キーボードの音程を半音単位でトランスポーズします。
5.	Octave –/+ ボタン	キーボードをオクターブ単位でトランスポーズします。

#	名称	内容
6.	パッド [p.12]	フィンガードラミングや MIDI ノートでの演奏ができます。ベロシティとプレッシャーに反 応します。
7.	Save/Quant/Undo/ Redo ボタン	このセクションでプリセットの管理やスケールとリズムのクォンタイズを設定します。
8.	DAW Command Center	お使いの DAW のリモートコントロールです。
9.	大型ディスプレイ	パラメーター名やその値、KeyLab Essential の動作状況などの情報を表示します。
10.	コンテクストボタン	4つのボタンで画面表示に沿った動作を操作します。
11.	メインエンコーダー	Analog Lab [p.34] のプリセットのブラウズや、KeyLab Essential のメニュー間の移動、 DAW [p.43] のその他の機能に使用します。
12.	Program ボタン	3つのメインの動作モード (Arturia、DAW、User) を切り替えます。
13.	Part ボタン	パート選択とスプリットポイントの設定時に使用します。
14.	Hold ボタン	オンの場合、鍵盤で弾いた音やアルペジオ演奏が鍵盤 (パッドではありません) から手を放し てもそのまま継続します。
15.	Chord ボタン	コードをワンフィンガーで演奏できる便利な機能です。
16.	Scale ボタン	鍵盤を通常の半音階ではなく、特定のスケール (音階) とキーに固定します。
17.	Arpeggio ボタン	アルペジエイターのないコントローラーキーボードなど成立するのでしょうか? そうは思 いませんが。
18.	ノブ&フェーダー	インストゥルメントやエフェクトプラグインのパラメーターをコントロールします。
19.	MIDI キーボード	49鍵または61鍵のベロシティ対応、シンセアクション鍵盤です。ベロシティカーブは MIDI Control Center で編集できます。

】!**ペロシティ対応**:KeyLab Essential の MIDI キーボードとパッドは、どちらも叩いた強さに反応するベロシティに 対応しています。強く弾く (叩く) と音量が大きくなります。

「フレッシャー対応:パッドを押してからさらに強く押し込むと、ブレッシャーデータが送信され、フィルターやボリュームなど色々なモジュレーションの変化を作り出すことができます。

"プレッシャー" という用語は **アフタータッチ** とも言います。KeyLab Essential のパッドはアフタータッチよりも上位 の **ポリフォニックアフタータッチ** に対応しており、パッドごとに別々のプレッシャーメッセージを送信できます。

3.3. リアパネル



#	名称	内容
1.	ケンジントンロック	ラップトップ向けの一般的なケンジントンロックが使用でき、盗難防止に役立ちます。
2.	コントロールペダル・イン	6.3mm TRS ジャックです。サステインペダルやフットスイッチ、 エクスプレッションペダルを接続できます。
3.	MIDI アウト	5ピン DIN の MIDI アウトです。外部の MIDI 対応ハードウェアの接続に便利です。 また、この端子は MIDI スルーとしても使用できます。
4.	USB-C ポート	KeyLab Essential をコンピュータに接続します。このボートで電源供給と MIDI メッセージやコントロール情報を送信できます。また、MIDI アウトでのみ外部機器をコントロールする場合は、このポートに USB 対応の電源ユニットを接続することもできます。

3.4. 設定値などの表示

デフォルト状態では、コントロール類に触れるとそのグラフィックをメインのディスプレイに表示し、コ ントロール類を操作するとその設定値も表示します。例えば、フェーダーを操作すると下図のように表示 します:



パッドを叩くと、最初にそのときのベロシティ値を表示します。その後パッドを押し込むと、プレッシャ ーの値を表示します。

4. KEYLAB ESSENTIAL の操作と動作設定

4.1. Wheels - ホイール



2つのホイールのうち、左側がピッチベンド・ホイールです。このホイールはスプリングが内蔵されてお り、操作したあとに手を放すとセンター位置に戻ります。ピッチベンドのレンジは MIDI Control Center ソフトウェアで設定します (MCC のマニュアルをご覧ください)。MIDI Control Center では、KeyLab Essential や他の Arturia 製コントローラーのほとんどのコントロール類の機能や動作をカスタマイズする ことができます。

右側のホイールが Mod (モジュレーション) ホイールで、上げるとモジュレーションが深くなります。他 のシンセにある Mod ホイールと同様、このホイールはスプリング内蔵ではありませんので、操作したあ とに手を放しても次に操作するまでその位置のままでいます。

Mod ホイールはデフォルト設定では MIDI CC 1 (モジュレーション) を送信しますが、この MIDI CC ナン バーは MIDI Control Center ソフトウェアで変更することも可能です。例えば Mod ホイールで音源のボリ ュームやフィルターのカットオフフリケンシー、あるいはその他のパラメーターを操作することもできま す。

2つのホイールの操作状況は、ディスプレイに表示されます。

4.2. MIDI チャンネル



DAW で作業しているときや、複数のハードウェアやソフトウェアのインストゥルメントを操作する場合、KeyLab Essential から送信する MIDI チャンネルを切り替えてノートデータやコントロールメッセージを送信したくなる場面があるはずです。そのような場合は、MIDI Ch ボタンを押しながら各 MIDI チャ ンネルに対応しているキーボードのキーを押すと、チャンネルが切り替わります。

キーボードの最低音の C からその上のオクターブの D# (Eb) までの各キーが、MIDI チャンネルの 1 - 16 に 対応しています。例えば、チャンネル10で送信したい場合は、MIDI Ch ボタンを押しながらキーボードの 最低オクターブの A を押します。



MIDI チャンネルの番号は、キーボードの上にプリントされています。

4.3. Bank



KeyLab Essential の8つのパッドは、MIDI ノートの送信やドラムサウンドを鳴らすのに便利です。たった 8個とは少ないと思われるかも知れませんが、実はバンクが2つあるのです。そのため、合計で16種類 (8 + 8) の MIDI ノートやドラムサウンドを演奏することができます。

デフォルト設定では、バンク A では MIDI ノートの 36 (C1) から 43 (G1) を、バンク B では 44 (G#1) から 51 (D#2) を送信します。

Bank	1	2	3	4	5	6	7	8
A	40 (E1)	41 (F1)	42 (F#1)	43 (G1)	36 (C1)	37 (C#1)	38 (D1)	39 (D#1)
В	48 (C2)	48 (C#2)	50 (D2)	51 (D#2)	44 (G#1)	45 (A1)	46 (A#1)	47 (B1)

バンク A と B の切り替えは、Bank ボタンで行います。Bank ボタンを押すと、どちらのバンクが選択されているかがディスプレイに表示されます。

!バンクBの選択時には、Bank ボタンが明るく点灯します。

4.4. Transpose -/+、Octave -/+



キーボードを半音単位で上下にトランスポーズするには、**Transp-** または **Transp+** ボタンを押します。 トランスポーズを使用している場合は、ボタンが明るく点灯します。

📃!Transp- と Transp+ ボタンを同時に押すと、トランスポーズが 解除 されます。

キーボードをオクターブ単位で上下にシフトするには、**Oct**- または **Oct**+ ボタンを押します。上下どちら も最大3オクターブまでトランスポーズができます。トランスポーズを使用している場合は、ボタンが明 るく点灯します。

|| ! Oct- と Oct+ ボタンを同時に押すと、オクターブシフトが **解除** されます。

半音単位でもオクターブ単位でも、トランスポーズの操作をすると、その操作がディスプレイに表示され ます。なお、トランスポーズもオクターブシフトもキーボードのみに適用され、パッドには適用されませ ん。パッドからは MIDI ノートナンバーが送信され、そのナンバーは MIDI Control Center で変更できま す。

4.5. Pads - パッド



KeyLab Essential の8つのベロシティとポリプレッシャー対応のパッドには様々な機能があります。デフ ォルト設定では、MIDI ノートをチャンネル10 (DAW やマルチティンバーのシンセではドラムパートがチ ャンネル10に割り当てられています) で送信します。

Bank ボタンを押すとパッドのバンクAとBが切り替わります。バンクBでは別の MIDI ノートを同じく チャンネル10で送信します。ノートナンバーは MIDI Control Center で変更できますが、デフォルト設定 でのノートナンバーは以下の通りです:

Bank	1	2	3	4	5	6	7	8
А	40 (E1)	41 (F1)	42 (F#1)	43 (G1)	36 (C1)	37 (C#1)	38 (D1)	39 (D#1)
В	48 (C2)	48 (C#2)	50 (D2)	51 (D#2)	44 (G#1)	45 (A1)	46 (A#1)	47 (B1)

| Bank ボタンを押すたびに、切り替わったバンク名がディスプレイに表示されます。

4.6. DAW コントロールセクション

KeyLab Essential から、お使いの DAW をリモート的にコントロールすることができます。Arturia では、 以下の主要 DAW 5種類に対して細かなコントロールができるスクリプトを作成しました:

- Ableton Live
- Apple Logic Pro
- · Bitwig Studio
- Image-Line FL Studio
- Steinberg Cubase

上記の DAW をお使いの場合、KeyLab Essential が自動認識されます。その上で、MCU/HUI プロトコルに も対応していますので、現在市場にある **あらゆる DAW** を KeyLab Essential からコントロールできます。

 !この洗練されたバージョンの DAW コントロール機能を使用するには、そのスクリプトを正しくインストールする 必要があり、そのためにはお使いの DAW を最新バージョンにアップデートしておくことをお勧めします。
 !各 DAW のユーザーガイドは、KeyLab Essential のリソースページからダウンロードできます。

ディスプレイに **DAWs** と表示されるまで **Prog** ボタンを押すと DAW モードに入ります。このモードに は、上述の5種類の DAW を KeyLab Essential に統合してディープにコントロールしたいときに入りま す。また、MCU/HUI プロトコルでどの Prog モードでも DAW コントロール機能が動作します。

ディスプレイの左側にある12個のボタンはいずれも DAW コントロールに関係したものですが、Save、 Undo、Redo の各ボタンは Arturia ソフトウェアでも使用できます。これらのボタンからはコントロール メッセージがソフトウェアに送信され、各ボタンの機能はあらゆる DAW で使いやすいように設定されて います。また、必要に応じて各ボタンの機能を MIDI Control Center で変更することも可能です。

業界標準の Mackie HUI データ言語を使用し、KeyLab Essential からお使いのレコーディングソフトウェ アに対して、以下のような最もよく使われるコマンドを送信できます:

- Save:トラックをセーブします。
- Quant:クォンタイズのオン/オフを切り替えます。
- Undo:トラックの削除や MIDI でのレコーディングなど、直前の操作を取り消します。
- Redo:アンドゥで取り消した直前の操作を再度実行します。

DAW コマンドセンターでは、以下のトランスポートコントロールも行えます:

- Loop:DAW のループ機能のオン/オフを切り替えます。ループ区間の設定は DAW で行います。
- Rewind/Fast-forward:再生カーソルの位置を素早く前後に移動し、トラックの編集した いポイントなどへ移動したいときに便利です。
- Metronome: DAW のメトロノームのオン/オフを切り替えます。
- **Stop**:再生を停止します。ソフトウェアによっては、停止操作で再生カーソルがトラックの 先頭に戻るものもあります。
- Play/Pause: DAW の再生カーソル位置から再生をスタートしたり一時停止したりします。
- **Record**:DAW での録音を開始します。トラックが停止している状態で Record ボタンを押 すと再生を始めつつ録音します。トラックがすでに再生中の場合に Record ボタンを押す と、その再生カーソル位置から録音を始めます。
- Tap:このボタンを数回叩いてテンポ (BPM) を入力します。

DAW コマンドセンターの各ボタンの機能は、デフォルト設定では一般的によく使われるものに設定されていますが、MIDI Control Center で別の機能に変更することができます。

DAW コマンドセンターの出力プロトコルは、MIDI Control Center で MCU または HUI に切り替えること ができます。

NOTE: KeyLab Essential と DAW の互換性は、その DAW で MCU/HUI プロトコルがどのように取り扱われている かで変わります。詳しくは、Arturia ウェブサイトの KeyLab Essential 製品ページ、またはお使いの DAW のマニュア ル等のドキュメントをご覧ください。

User Programs: KeyLab Essential は、MIDI Control Center ソフトウェアで作成したカス タムマッピング (詳しくは MIDI Control Center のマニュアルをご覧ください) のユーザープ ログラムを最大6個までメモリーできます。ユーザープリセットは MIDI Control Center で個 別にオン/オフ切り替えができます。操作方法などの詳細につきましてはチャプター5でご紹 介しますが、現時点では、ARTURIA モードでも DAW モードでも Prog ボタンを押しながら いずれかのパッドを押すと、オンになっている ユーザープリセットを選択できるということ だけ覚えておいてください。

4.6.1. DAW での MIDI 設定

KeyLab Essential と DAW を併用する場合、DAW での正しい MIDI 設定が重要なポイントです。

お使いの DAW に、プリファレンスやオーディオ、あるいは MIDI の設定ページがあるかと思います。そう したページには、MIDI の入出力を設定する画面があるはずです。その画面で "KL Essential 49 mk3" また は "KL Essential 61 mk3" を MIDI コントローラーに選択すると、次のような詳細オプションが選択できま す:

										Edit Device		
								Device I	Model			
								Manufad	cturer			
								Device I	Name	KLE	3	
		Preferer	nces									
Ø		0)	Ċ)		o _c					
General	Locations	Audio S	ətup	External D	evices	A	dvanc					
Name		Send To	Rece	ive From	Ck			MIDI Ch	annels	All	12 13 14 15	16
WE KLES			KL Es	sential 6MI	DI			Deserve				5
De New Keyboa	ard	Not connected	Not c	onnected				Heceive	From	None	TIKS MIDI	
New Keyboa								Filter		AudioFus		
										🗸 KL Essen	tial 61 mk3 M	
										KL Essen	tial 61 mk3 DI	NTHRU
										KL Essen	tial 61 mk3 M	
								Send To		KL Essen	ial 61 mk3 Al	_V
								Spli	t Channel:			
								Defa	ault Instru	ment Input		
								Ena	ble MPE	Pitch Range		
										Cancel	ок	
Add			Placemer									
✓ Notify me if dev	vices are una	vailable when Stud	lio One st	tarts								
Preferences Sor	ng Setup											

Studio One の MIDI デバイス設定ページ

- KL Essential (49/61) mk3 MIDI: KeyLab Essential の USB-C ポート経由で MIDIの送受信が オンになります。
- KL Essential (49/61) mk3 DINTHRU:ホストソフトウェア (DAW など) からの MIDI メッセ ージが、KeyLab Essential の5ピン MIDI アウト端子からスルー出力されます。この設定は、 ハードウェアシンセを DAW から演奏/コントロールする際に、KeyLab Essential を MIDI イ ンターフェイスとして使用したいときに便利です。
- KL Essential (49/61) mk3 MCU/HUI: KeyLab Essential を Mackie Control Universal の コントロールサーフェスとして使用するときに、このオプションを選択します。この場合、 KeyLab Essential はノートやコントロールチェンジなどの MIDI メッセージを送信しません。
- KL Essential (49/61) mk3 ALV: Analog Lab V から KeyLab Essential ヘスクリーンメッセー ジを送信します。

通常は、KL Essential (49/61) mk3 MIDI を常時オンにするのが一般的かと思います。KeyLab Essential で対応 DAW [p.43] のいずれかをコントロールする場合は、KL Essential (49/61) mk3 MCU/HUI を オフ にしてください。

4.7. Prog

Prog ボタンを押すたびに、KeyLab Essential のメインモードが切り替わります。



- Arturia:お使いのコンピュータに入っているインストゥルメントをコントロールするとき に、このモードを使用します。
- DAWs:このモードでは、次の DAW に対応したコントロールスクリプトがオンになります:Live、Logic Pro、Bitwig Studio、FL Studio、Cubase
- User:最大6種類のプリセットのユーザープログラムが使用できます。このプリセットは MIDI Control Center でオン/オフを切り替えることができます。

!別の操作方法として、**Prog** ボタンを押しながらそれぞれのモードに対応するパッドを押すと、そのモードに入れ ます。 ! MCU/HUI プロトコルで DAW をコントロールする場合は、KeyLab Essential はどのプログラムモード (Arturia、DAWs、User 1-6) にも入れます。

4.8. Part

このセクションでは Part ボタンを押したときに使用できる各種機能をご紹介します。



Part 機能は User/DAW モードでも Arturia モードでも使用できますが、その機能の動作の仕方が以下のケースで変わります。

ケースその1:複数のバーチャルインストゥルメントやハードウェア機器を同時にコントロールする場合。

ケースその2: Analog Lab V のマルチプリセットをリモートコントロールする場合。

Analog Lab V は、他のバーチャルインストゥルメントの多くと同様、シングルと マルチモードがありま す。マルチモードを使用する場合、細かなコントロールをするには個々のパートに対して操作する必要が あり、KeyLab Essential には豊富なオプションが用意されています。

Analog Lab V の個々のパートをコントロールする方法の詳細につきましては、Analog Lab V の各パートを操作する [p.39]をご覧ください。

On の下にあるボタンを押すと、Part モードが解除されます。

リターンアイコン (戻る) の下にあるボタンを押すと、Part セクションから抜けます。

4.8.1. スプリットポイントを設定する

Part ボタンを一回押すと、パート1をコントロールする状態になっていることがディスプレイに表示され ます。その後すぐに Part ボタンをもう一度押すと、パート2に移ります。スプリットポイントやマルチが オフの場合、スプリットポイントを作成するか、パートエディットのメニューに入るかがディスプレイに 表示されます。



Part ボタンを長押しすると、パート1またはパート2のエディットモードに入ります。エディットしたい パートの選択は、ディスプレイの P1、P2 の下にあるボタンのいずれかを押します。

このページではスプリットポイントを設定できます。このとき、メインエンコーダーを回すと以下の4つ のエディットポイントを設定できます:

- パート1の最低音
- パート1の最高音
- パート2の最低音
- パート2の最低音

メインエンコーダーを回してエディットしたいポイントを選び、メインエンコーダーをクリックするとそのポイントをエディットできます。メインエンコーダーをもう一度クリックすると、ポイントの選択モードに戻ります。

上記4つのポイントを個別にエディットすることにより、パートの一部を重ねることも、あるいはどちらのパートも非常に狭い範囲に音域を絞ることもできますし、両方のパートの発音域をまったく同じに設定 すれば、2つのサウンドがユニゾンで発音します (レイヤー)。

4.8.2. パート1、パート2をエディットする

マルチまたはスプリットポイントがオンの場合、ディスプレイの P1、P2 の下にあるボタンを押すこと で、パート1またはパート2のエディットができます。エディットするパートを選択すると、ディスプレイ のヘッダ表示が Editing Part 1 (または2) に変わります。



このメニューに入ることで、そのパートのオクターブや MIDI チャンネルを変更できます。シンプルその ものですね。

リターンアイコン (戻る) の下のボタンを押すと、パートメニューに戻り、同じボタンをもう一度押すとパ ートセクションから抜けます。

4.9. Hold モード



Hold 機能は最後に弾いたノートを、次に新たなノートを弾くか、ホールド機能をオフにするまで伸ばします。

ホールド機能に入るには、Hold ボタンを押します。するとボタンが点灯し、ディスプレイには **Hold mode ON** と表示されます。Hold ボタンをもう一度押すと、ホールド機能がオフになります。



ホールド機能は、サステインペダルとは動作が異なります。サステインペダルの場合、ベダルを踏んだあ とは、ペダルを放すまで弾いた音をすべて長く伸ばします。一方ホールド機能は、同時に弾いた音のみを 長く伸ばします。例えば、ホールド機能をオンにしてからキーボードで C と G の音を弾くと、別の音を 弾くまで2つの音が長く伸びます。新たな音を弾くと、C と G の音が切れます。

!ホールド機能をオンにする方法には次の2つがあります:キーボードを 弾く前に Hold ボタンを押す、または、キーボードで音を弾き、その音を 押さえている間に Hold ボタンを押します。!ホールド機能がオンの場合、Hold ボタン が明るく点灯します。!ホールド機能は、キーボードでの演奏に対してのみ動作します。パッドに対しては動作しません。

4.10. Chord モード



KeyLab Essential は、入力したコードを記憶し、それをワンフィンガーで演奏でき、演奏した音程に応じ てコードがトランスポーズするコードモードを内蔵しています。

コード情報は MIDI データとして USB-C ポートまたは 5ピン MIDI アウトから送信されます。送信するポートは、DAW などのホストソフトウェアの MIDI 設定で選択できます。

Chord ボタンを押してコードモードのオン/オフを切り替えます。オンの場合、単音を弾くと最後に記憶 したコードを発音します。

1 コードの内容はスケールに沿わせることも、アルペジエイターに流し込むこともできます。! Chord Play モード (コードを演奏するモード) と Chord Edit モード (コードを編集するモード) とでは、互いに独立しているとも言える関 係にあります。つまり、Chord Edit モードではコードが自動的に発音することはありませんし、Chord Edit モードを 抜けても Chord 機能全体がオフになるわけでもありません。

4.10.1. プリセットコードを演奏する

Chord ボタンを長押ししてから放すと、KeyLab Essential に内蔵のプリセットコードを選択できます。 プリセットコードには Preset のボタンを押して入ります。



- Octave
- 5th
- Major Triad (メジャートライアド)
- Minor Triad (マイナートライアド)
- Sus 2
- Sus 4
- Major 7
- Minor 7
- Major 9
- Minor 9
- Major 11
- Minor 11

4.10.2. コードを作成する

Chord ボタンを長押すると Chord Edit モードに **入ります**。このとき、ディスプレイには *Create Chord* と 表示されます。

ディスプレイ下部に左向き矢印アイコンの下にあるコンテクストボタンを押すと、Chord Edit モードから 抜けます。

Create chord

Or release to edit

キーボードでコードを押さえると、KeyLab Essential にそのコード情報が入力されます。このとき、コードの構成音をすべて同時に押さえることもできますし、1音ずつ追加していくこともできます。コードを入力すると、ディスプレイには次のように表示されます:

Creating chord 6 – 1 – 3 – b5

次に、Chord ボタンを放します。このときコードモードが自動的にオンになります。入力したコードは、 コードモードから抜けてからもう一度戻ってもメモリーされていますし、KeyLab Essential の電源を切っ てもメモリーされます。新たなコードで前のコードを上書きするには、上記の手順をもう一度行います。

! コードの最低音をそのコードのルートノートにしたいときは、その音をコードの他の構成音よりも先に押さえて ください。

Chord ボタンをもう一度押すと、コードモードから抜けます。

!コードモードに入っているときは、Chord ボタンが明るく点灯します。!コードモードはキーボードでの演奏に対 してのみ動作します。パッドに対しては動作しません。 Scale ボタンを長押しすると、Scale Edit モードに入ります。

ディスプレイ下部に左向き矢印アイコンの下にあるコンテクストボタンを押すと、Scale Edit モードから **抜けます**。



キーや調性を常に一定で演奏したいときに、スケール機能は便利です。スケール機能は、選択したスケ ール以外の音をスケールに沿った音にリダイレクト (振り替える) という機能です。そうすることで、 KeyLab Essential をどう弾いても「正しい音」しか出ないようにすることができます。

Scale ボタンを押すとスケールモードがオンになります。以前にスケールとキーを選択していた場合は、 その設定が有効になります。

Scale ボタンを長押しすると、スケールページに入ります。**Root** の下のボタンを押して **メインエンコー ダー** を回すとスケールのルートノート (スケールの開始音) を選択でき、**Type** の下のボタンを押すとスケ ールの種類を選択できます。



選択できるスケールは以下の通りです:

- Chromatic:半音階。通常演奏時に使用します。
- Major: メジャースケール
- Minor:ナチュラルマイナースケール
- Dorian:ドリアンモード
- Phrygian:フリジアンモード
- Lydian:リディアンモード
- Mixolydian: ミクソリディアンモード
- Locrian:ロクリアンモード
- Harmonic Minor: ハーモニックマイナースケール
- Blues:6音で構成されたブルーノートスケール
- Pentatonic Major:メジャーペンタトニックスケール
- Pentatonic Minor:マイナーペンタトニックスケール (ブルーノートスケールを簡略化)
- Japanese:5音の和風ペンタトニックスケール
- Gypsy:ジプシースケールの1つ
- Arabic:アラビックスケール
- Freygish:フリジアンドミナントスケール

スケールを選択するとそのスケールで使用する音がディスプレイに表示されます。ディスプレイ内のミニ キーボードをご覧ください。

白く表示された音がそのスケールの構成音で、それ以外の音は黒く表示されます。ルートキーの音にはそ の下に三角 (▲) が表示されます。

通常のキーボードモード (スケール何も選択していない状態) に戻るには、Scale ボタンを押します。

1. スケール機能がオンのときは、Scale ボタンが明るく点灯します。!スケール機能はキーボード演奏に対してのみ動作します。パッドに対しては動作しません。! Scale Play モード (スケールを使用するモード) と Scale Edit モード (スケールを選択するモード) とでは、互いに独立しているとも言える関係にあります。つまり、Scale Edit モードに入っただけでは何らかのスケールが自動的にオンになるわけでもありませんし、Scale Edit モードから抜けてもスケール機能そのものがオフになるというわけでもありません。

4.12. Arpeggiator



KeyLab Essential には、コードを押さえるとその音に沿って色々なパターンで演奏する楽しくて自由度が 高い、クラシックシンセで見られたスタイルのアルペジエイターが内蔵されています。

アルペジエイターは多くのシンセサイザーに内蔵されています。キーボードでコードを押さえると、その コードをアルペジオに変換するのがアルペジエイターの基本的な機能です。アルペジエイターには通常、 スピード、レンジ (オクターブ)、モード (アップ、ダウン、アップ/ダウンなど) といったパラメーターの 他に、ホールド (キーボードから手を放してもアルペジオ演奏がそのまま継続する機能) もあります。

アルペジエイターの演奏情報は、MIDI データとして USB-C ポートまたは5ピンの MIDI アウトから送信さ れます。どちらのポートから出力するかは、お使いのホストソフトウェア (DAW など) の MIDI 設定で切り 替えることができます。

4.12.1. アルペジエイターのオン/オフ

アルペジエイターのオン/オフ切り替えは、**Arp** (Arpeggiator) ボタンで行います。ボタン操作の都度、 KeyLab Essential のディスプレイにその状況が次のように表示されます:

Arpeggiator ON

Long press to edit

merporr

リアルペジエイターはキーボードでのみ使用でき、パッドからは使用できません。また、アルペジエイターがオンの状態でも、パッドでのサウンドのトリガリングはそのまま行えます。

4.12.2. アルペジオエディットページに入る/抜ける

Arp ボタンを長押しすると、アルペジオエディットページに入ります。

ディスプレイ下部にある左向き矢印アイコン ("戻る" アイコン) の下にあるコンテクストボタンを押すと、 アルペジオエディットページから **抜けます**。

アルペジオエディットページに入ると、ディスプレイの表示は次のようになります:

	n nana	ncusie	
Arp	. <u>0n</u>	Mode	Up
Div	1/8	Gate	55%
لب.	Ø	1	2
		ntellene ri	12
Swing	l Off	Rate	150
Sync	Rate	Oct	0
÷1	ð	1	2

!アルペジオ演奏の状態(アルペジエイターが演奏中なのかどうか)と、アルペジオエディットの状態(アルペジエイターの動作設定をするところ)とは、ある種独立した関係であると言えます。例えば、アルペジオエディットページに入っただけではアルペジエイターが自動的にスタートするわけでもありませんし、アルペジオエディットページから抜けてもアルペジエイターがオフになるわけでもありません。

4.12.3. アルペジエイターのエディット

まずは前ページでアルペジエイターの2つの状態、つまり **アルペジオ演奏** と **アルペジオエディット** のと ころをお読みください。この2つの状態の違いを踏まえることで、アルペジエイターのエディットをスム ーズに行えるようになります。

簡単に言えば、**Arp** ボタンを長押しするとアルペジオエディットページに入り、Arp ボタンを押すとアル ペジエイターがオンになります。

アルペジオエディットページのディスプレイ表示は、次のようになります:



アルペジオエディットのパラメーターは、2ページにわたって入っています。ページの切り替えは、画面の $1 \ge 2$ の下にあるボタンで行います。また、エンコーダーノブを回すだけでもページが切り替わります。

アルペジエイターのパラメーターは、次の通りです:

- **On/Off**:アルペジエイター自体のオン/オフです。
- Mode: アルペジエイターが発音する音の順番 (アップ、ダウンなど) を選択します。
- Division:マスターテンポに対するアルペジオの1ステップの拍の長さを設定します。
- Gate: アルペジオの各音の長さ (ゲートタイム) を調整します。
- Swing:シャッフルビートのような"ハネた"感じを出します。
- Rate: Sync (同期設定) が内部クロックに設定されているときの、アルペジエイターのスピードを BPM 単位で設定します。
- Sync:アルペジエイターのテンポソースを内部クロック (Rate) または接続しているソフト ウェアやハードウェアからの外部ソース (Ext) のどちらかに切り替えます。
- Octave:アルペジオを繰り返すたびに移動するオクターブの幅を0-3オクターブの範囲で 設定します。

エンコーダーをクリックするとパラメーターを選択でき、エンコーダーを回すとそのパラメーターの設定 値を変更できます。変更しましたら、エンコーダーをもう一度クリックすると変更した内容で確定しま す。

パラメーターを変えると、そのパラメーターの値に下線が付きます(下図参照):

	u:n:	melens	
Swing	67%	Rate	128
Sync	Rate	Oct	_2
لب	Ø	1	2

パラメーターの設定値が変更可能になると、その値に四角い枠が付きます(下図参照):

1993) 1993	nene:	melena	
Swing	67%	Rate	128
Sync	Rate	Oct	2
لي	~¢ ²	1	2

4.12.4. アルペジエイターのパラメーター

では、アルペジエイターの各パラメーターを細かく見ていきましょう。

4.12.4.1. Arpeggiator On/Off



このパラメーターの設定値は On と Off の2つがあるだけで、アルペジエイターをオンかオフに切り替えま す。画面で操作するよりも Arp ボタンを押すだけでオン/オフが切り替わりますからそのほうが簡単です ね。

4.12.4.2. Mode



Mode ではアルペジオ化された各音を発音する順番 (つまりアルペジオのパターン) を選択します。パター ンには以下のものがあります:

- Up:押さえたコードの構成音を上昇方向でのみ発音します。
- Down:押さえたコード構成音を下降方向でのみ発音します。
- Inc: インクルーシブの略です。上昇と下降を交互に繰り返し、最高音と最低音を2回ずつ発 音します。
- Exc:エクスクルーシブの略です。上昇と下降を交互に繰り返しますが、最高音と最低音は1 回のみ発音します。
- Rnad: ランダムの略です。押さえたコード構成音をランダムな順番で発音します。
- Order:押さえたコード構成音をキーボードで押さえた順番で発音します。



4.12.4.3. Division



このパラメーターでは、マスターテンポ (テンポソースが内部クロックでも外部クロックでも)に対するア ルペジエイターの相対的な拍の長さを設定します。設定値には 1/4 (4分音符)、1/8 (8分音符)、1/16 (16分 音符)、1/32 (32分音符) があり、それぞれに "ストレート" と3連符があります。設定値の後ろに "T" があ る場合 ("1/8T" など) は、3連符になります。



4.12.4.4. Gate



ゲートタイムはアルペジオの各音が実際に発音する音の長さを指し、各音の長さを一斉に変更できます。 設定値が低い (ゲートタイムが短い) 場合、よりスタッカート的に短く発音し、設定値を高く (ゲートタイ ムを長く) すると音源のエンベロープをフルに使えるように長く発音します。

♪ ボリュームエンベロープのリリースが長い音色を使用している場合、ゲートタイムを短くすることで各音を比較的明瞭に発音させるやすくなります。

4.12.4.5. Swing



スウィングは完全に均等なビートではなく、やや遅れた感じのビート、別の言い方をすれば "ハネた" 感 じのビートにする機能です。

例えば Div パラメーターで 1/8 (8分音符) を選択し、Swing をオフ (実際には 50%) にセットした場合、す べての8分音符を均等な間隔で発音します。Swing の値を上げると、偶数個目の発音が遅れていきます。 値が 67% になると、最も典型的なスウィングのフィールになります。値を 55 - 64% の範囲にすると、曲 調によっては不思議とうまくハマるややハネた感じのリズムになります。

上記の動作は Div を他の設定値 (1/4、1/16、または 1/32) にしても同様に動作します。

4.12.4.6. Rate



このパラメーターで、アルペジエイターのスピードを BPM 単位で設定します。ただしこれは、Sync パラ メーターが内部クロック (Rate) にセットしていた場合にのみ有効です。Sync が外部クロックに設定され ている状態で Rate の設定値を変更しようとすると、"External Sync selected" (外部シンクを選択してい ます) というメッセージが表示されます。

♪ アルペジエイターのスピードは、タップテンポ [p.31]ボタンでも設定できます。



Sync パラメーターには選択肢が2つあります。1つは内部クロック (Rate)、もう1つは外部クロック (Ext) です。

- Rate:アルペジエイターは、KeyLab Essential の内部クロックで動作し、スピートは Rate パラメーターで設定できます。
- Ext:アルペジエイターのスピードは DAW などのホストソフトウェアで設定したテンポに従います。アルペジエイターが外部クロックを検出していない状態でアルペジオを演奏しようとして KeyLab Essential のキーボードを弾くと、"Arp Sync: Ext No clock detected" (外部クロックを検出していません)というメッセージが表示されます。また、外部クロックを使用する場合は、クロック信号 (MIDI クロック)が KeyLab Essential の USB-C ポートに送信されるように設定する必要もありますし、DAW を再生させる必要もあります。

♪ どういうときにどちらに設定するべきなのか? 例えば、Analog Lab V をスタンドアローンモードで使用してい る場合、KeyLab Essential の内部クロックを使用すれば Rate パラメーターでアルベジオのスピードを自在に設定でき ます。5ピン MIDI アウトからハードウェアシンセをコントロールする場合も同様です。一方、Analog Lab や他のイン ストゥルメントを DAW のプラグインとして使用している場合は、外部クロック (Ext) にセットして DAW のテンポに従 うようにするのが自然です。 ♪ DAW からのテンポ信号は、DAW の再生時にしか送信されません。DAW が停止してい るときは、KeyLab Essential は同期しません。

4.12.4.8. Octave



アルペジオを繰り返すたびに、キーボードで押さえたコードの0から3オクターブ上までアルペジオ演奏 をさせることができます。0のときはキーボードで押さえたコードと同じオクターブでのみアルペジオ演 奏を繰り返し、1にセットしたときは同じオクターブと1オクターブ上のアルペジオを交互に繰り返し、2 の場合は同じオクターブ→1オクターブ上→2オクターブ上の順でというように、設定値が上がるごとに オクターブ上のアルペジオ演奏が増えていきます。

4.13. Tap Tempo



タップテンポは、TAP ボタンを叩く (タップする) ことでアルペジエイターを動かす KeyLab Essential の 内部クロックのスピード (テンポ) を設定できる機能です。例えば、ドラマーがいるバンドでドラマーの テンポに合わせたいときや、MIDI や同期機能がないドラムマシンのテンポにアルペジエイターのテンポ を合わせたいときに、この機能が便利です。



📃 ♪ タップする回数を増やすと、テンポにより正確に合うようになります。

4.13.1. アルペジエイター、コードモード、スケールモード、ホールドモード

アルペジエイターは、コードモードと併用できます。両方がオンの場合、コードモードで記憶しているコ ードでアルペジオ演奏ができ、Mode や Div などのアルペジエイターのパラメーターもすべて使用できま す。また、コードはスケールモードで設定したスケールに沿った構成音にすることができ、その結果をア ルペジエイターに送り込むこともできます。

スケールモードもアルペジエイターと併用できます。この場合、元になるコードは選択したスケールに沿った音で構成されたコードになります。

11-1-1	an a da	ON
Hold	mode	UN
		011

さらに Hold をオンにすれば、アルペジオ演奏のキーをワンフィンガーで変更でき、その間に両手で音色 パラメーターを変化させるなどの作業ができます。

4.14. ヴェガスモード

何も操作しない状態が一定時間続くと、KeyLab Essential はコンピュータのスクリーンセイバーのよう な、いわゆる "ヴェガスモード" に入ります。このとき、ディスプレイは暗くなり、パッドは順次7色に点 灯します。

この場合、KeyLab Essential のキーボードを弾いたり、コントロール類を操作すると通常動作に戻ります。

| MIDI Control Center ソフトウェアでは、ヴェガスモードに入るまでの時間を設定したり、ヴェガスモード自体を オフにし、代わりにディスプレイや LED が全消灯するスリープモードにすることができます。デフォルト設定では、 何も操作しない状態が5分続くとヴェガスモードに入ります。

Global Parameter				
Vegas Mode	15min 🔻			
	Off			
Knob Acceleration	5min			
User preset 4	30min			

4.15. ファクトリーリセット

!この操作は、すべてのユーザープリセットとデバイス設定を消去して工場出荷時の状態に戻します。この操作を行 う際には、事前に MIDI Control Center でデータのバックアップをとっておいてください。

KeyLab Essential を工場出荷時の状態にリセットするには、次の手順で行います:

1. KeyLab Essential から USB-C ケーブルを取り外します。

2. ディスプレイの下にあるコンテクストボタンの1と2を押したままにします。

3. 上記のボタンを押したまま、USB-C ケーブルを接続し、ディスプレイに Firmware / Exit / Reset (下 図参照) が表示されるのを待ちます。



Firmware

Exit Reset

4. コンテクストボタンの1と2を放します。Reset のコンテクストボタンを押すと工場出荷時の状態に 戻す処理が始まり、工場出荷時にリセットしない場合は Exit のコンテクストボタンを押します。

5. KEYLAB ESSENTIAL AND ANALOG LAB V

このチャプターでは、音楽史を彩ってきたキーボードやシンセサウンドのブラウザである Analog Lab V を、KeyLab Essential で使用する方法に絞ってご紹介します。



KeyLab Essential と Analog Lab V を組み合わせれば、ほぼあらゆる音楽的シチュエーションに対応でき るようになります。

5.1. 重要なポイント - すべては流動的なのです

このチャプターでご紹介する内容は、KeyLab Essential で Analog Lab V をすぐに使用できるように設計 されたデフォルト設定を前提にしています。また、マクロにアサインされるパラメーターは、プリセット によって異なりますので、ノブ 1-8 を操作したときに起こる音色などの変化はプリセットごとに異なりま す。

さらに KeyLab Essential は、他の Arturia インストゥルメントの MIDI ラーン機能でコントローラーとパ ラメーターのマッピングを設定する汎用 MIDI コントローラーとしても使用できます。その場合は、イン ストゥルメントの MIDI Settings タブを開いて "Learn" をクリックし、画面上のパラメーターを選択して から KeyLab Essential のコントロール類を操作してマッピングします。

! KeyLab Essential は他の MIDI コントローラーと同様、Arturia 製以外のソフトウェアやプラグインもコントロールできますが、MIDI Control Center でどのコントロール類からどの MIDI メッセージやその値を送信するかを細かく設定できる点が、KeyLab Essential を使用する大きなメリットです。

5.2. オーディオと MIDI の設定

Analog Lab V をスタンドアローンモードで開いてから最初にすることは、Analog Lab からのオーディオ が正しく出力されるように、そして KeyLab Essential からの MIDI メッセージを受信できるように設定す ることです。

imes settings					
Audio Settings		III MIDI Settings			
Device	CoreAudio	MIDI Devices	AudioFuse		
	AudioFuse		KL Essential 61 mk3 MIDI		
			KL Essential 61 mk3 DINTHRU		
Output channels	Main L + R		KL Essential 61 mk3 ALV		
	Cue 1 L + R				
		Tempo	120.0 BPM - +		
Input channels	Mic/Line 1				
	Mic/Line 2				
	Phono L/Line 3				
Buffer size	\$ 64 samples (1.5 ms)				
Sample rate	≑ 44100 Hz				
Test Tone	Play				

Analog Lab V をスタンドアローンモードで使用する場合、Analog Lab V の画面左上にあるメインメニュ ー (横3本線のアイコン) から Audio MIDI Settings を開きます。Analog Lab V を DAW のプラグインと して使用している場合は、DAW の MIDI プリファレンスを開いて、MIDI のインプットリストから KeyLab Essential (49/61) MIDI を選択し、Analog Lab V のトラックを作成して録音待機状態にします。これで Analog Lab V がお使いの DAW 上で演奏できるようになります。

上図は Analog Lab V のスタンドアローン動作時の設定画面です。オーディオデバイスはお使いの環境に 合わせて設定してください。この設定画面で重要なポイントは、KeyLab Essential と Analog Lab V、あ るいは DAW とのコントロール関係を設定する3つの MIDI ポート/デバイスです:

- KL Essential (49/61) mk3 MIDI: KeyLab Essential の USB-C ポートを介して MIDI メッセージのやり取りができます。
- KL Essential (49/61) mk3 DINTHRU:ホストソフトウェアからの MIDI メッセージを KeyLab Essential の5ピンの MIDI アウト端子からそのままスルー出力します。この設定は、 DAW からの MIDI メッセージで外部のハードウェアシンセなどを演奏させたりコントロール するときに、KeyLab Essential を MIDI インターフェイスとして使用したいときに便利です。
- KL Essential (49/61) mk3 MCU/HUI: KeyLab Essential を Mackie Control Universal コン トロールサーフェスとして使用します。この場合、そのポートではノートデータやコントロ ールチェンジなどの MIDI メッセージをやり取りしなくなりますのでご注意ください。
- KL Essential (49/61) mk3 ALV: Analog Lab V からスクリーンメッセージを KeyLab Essential に送信します。

ほとんどのケースでは **KL Essential (49/61) mk3 MIDI** を常時オンにします。KeyLab Essential で対応 DAW [p.43] をコントロールするときは、**KL Essential (49/61) mk3 MCU/HUI** を必ず オフ にしてくださ い。

5.2.1. Analog Lab V MIDI Settings

Analog Lab V の画面右上にあるギアのアイコンをクリックすると各種設定を行う Settings セクションが 開きます。次に MIDI タブをクリックし、**MIDI Controller** ドロップダウンメニューに KeyLab Essential が自動検出されていないときは、メニューから *KL Essential 3*を選択します。

Settings MIDI	Macros Tutorials
MIDI Controller	KL Essential 3 🔻
Fader Mode	MIDI Controller
	Generic 9 Knobs Generic 9 Knobs + 9 Faders KeyLab 25 KeyLab 49 KeyLab 61 KeyLab 88 KeyLab 88 KeyLab Essential ✓ KL Essential 3 KeyLab mkII KeyLab mkII KeyLab mkII 88 Minilab Minilab MKII Minilab 3 MicroLab Factory
	Laboratory

この操作により、カスタムコントローラーマッピングのテンプレートを選択することになります。 Analog Lab V の画面最下部のロワーツールバーの **Controls** が有効になると、画面下部に KeyLab Essential のコントロール類に対応したノブやフェーダーが下図のように表示されます:



次は —ここが重要です— KeyLab Essential の **Prog** ボタンを押して ARTURIA プログラムモードを選択し ます。このとき、Prog ボタンを数回押す必要があることもあります。あるいは、**Prog** ボタンを押しなが らパッド1を押しても ARTURIA プログラムモードに入れます。



5.3. プリセットのブラウジング

KeyLab Essential を使って Analog Lab V で最初に行うことの1つといえば、メインエンコーダーでプリセットをブラウズしたり選択したりすることでしょう。

メインエンコーダーを回すと、Analog Lab V のプリセットブラウザ中央部のサーチ結果表示エリアに表示されているプリセットがスクロールします。メインエンコーダーを押すと、そのプリセットがロードされます。KeyLab Essential のディスプレイにはそのプリセット名とタイプが表示されます:

12 1	Evolve	Part	ials
(可 (rea	tive SF	X
Types	Ç	~	\sim

!ブリセット選択していても、それをまだロードしていないときは、ディスプレイに表示されているプリセット名が 点滅します。

メインエンコーダーを長押しすると、その時に選択していたプリセットが Liked ("いいね") プリセットに 追加されるか、すでに Liked だったプリセットの場合はそれが解除されます。ディスプレイのハートマー クの下のボタンを押しても同じ操作ができます。

 11 VOCAL 1
 Synth Choir

 • 12 Evolve Partials
 Creative SFX

 12 Low Strings
 String Ensemble

"いいね" をつけた (Liked に追加された) プリセットにはハートマークが付きます。

Analog Lab のプリセット階層の "ツリー構造" のうち、タイプ (Types) と呼ばれるプリセットカテゴリー を掘り下げていくこともできます。



メインエンコーダー (ディスプレイの下にある大きなノブ) を回すと、色々な楽器のタイプが切り替わりま す。エンコーダーを押すとそのタイプを選択します。選択後、エンコーダーを回すとそのタイプに属して いるサブタイプをスクロールすることができます。

1つ上の階層、つまりタイプを選択する階層へ戻るには、ディスプレイの Types の下にあるボタンを押します。

5.3.1.1. タイプ間を移動する

- タイプをブラウズするには:メインエンコーダーを回します。
- タイプを選択するには:メインエンコーダーを押します。
- タイプ内の全プリセットを表示するには:ディスプレイのチェックマークの下にあるボタン を押します。するとそのタイプに属しているすべてのプリセットがコンピュータの画面に表 示されます。
- サブタイプに入るには:(タイプの選択後に)メインエンコーダーをクリックします。
- サブタイプのリストが表示されているときに、メインエンコーダーをクリックするとサブタ イプのプリセットリストに入ります。

5.4. ノブとフェーダー

KeyLab Essential を ARTURIA モードにする (ARTURIA モードが出るまで **Prog** ボタンを数回押し、MIDI 設定 [p.35]の MIDI コントローラーで *KeyLab Essential* を選択します) と、ノブとフェーダーでパラメー ターをコントロールでき、ライブやレコーディングで驚くほどスムーズに操作することができます。



ノブとフェーダーは Arturia インストゥルメントの **マクロ** にアサインされます。マクロには複数のパラメ ーターをアサインできますので、KeyLab Essential のノブを1つ操作するだけでも音色を大きく変化させ ることができます。V Collection のインストゥルメントをお持ちの場合はこれと同じことができ、Analog Lab V から V Collection のインストゥルメントを開いてそのパラメーターをマクロにアサインすることも できます。 ! Analog Lab V の画面右上にあるギアのアイコンをクリックして MIDI 設定を開き、MIDI コントローラーに KL Essential 3 を選択してください。ノブとフェーダーのそれぞれにどの機能を割り当てるかは、MIDI Control Center ソ フトウェアで設定できます。

5.5. パッド



KeyLab Essential のパッドからは前のチャプターでご紹介しました通り MIDI ノートを送信します。デフォルト設定のノートナンバーは次の通りです:

Pad Bank	1	2	3	4	5	6	7	8
A	40 (E1)	41 (F1)	42 (F#1)	43 (G1)	36 (C1)	37 (C#1)	38 (D1)	39 (D#1)
В	48 (C2)	48 (C#2)	50 (D2)	51 (D#2)	44 (G#1)	45 (A1)	46 (A#1)	47 (B1)

5.6. Controlling Parts in Analog Lab V - パートコントロール

KeyLab Essential が **ARTURIA モード** (ARTURIA モードが出るまで Prog ボタンを数回押します) に入って いる場合、Analog Lab V のマルチプリセットの各パートをリモート的にコントロールすることができま す。

この機能を使用するには、(メインエンコーダーを回し、クリックして選択して) マルチプリセットをロードするか、シングルプリセットにパートを追加することもできます。

5.6.1. Analog Lab V のパートを追加する

パートを追加するには、シングルプリセットを選択した状態で Part ボタンを長押しします。すると、 Add Part (パート追加) メニューに入ります。



このメニューには4つのオプションがあります。

- Types: Types メニューに移動します。
- パート有効 または パート削除:パートを有効にしたり、削除 (プリセットをロードしていない場合) します。
- **上方向にブラウズ**:プリセットリストを前方にスクロールし、プリセットをロードします。
- 下方向にブラウズ:プリセットリストを後方にスクロールし、プリセットをロードします。

プリセットを選択してその音を聴くには、メインエンコーダーをクリックします。

5.6.2. 既存のマルチプリセットをエディットする

Analog Lab V にロードされたマルチプリセットをエディットすることもできます。まず **Part** ボタンを長 押ししてからボタンを放します。これで Multi Part (マルチパート) ページに入ります。

		i Bant	
்பா		CP () conservation	
mm		71777777777777777777777777777777777777	mm
		"Z	
لي	Ø P1	Ø P2	imes P2

このページでパート1とパート2のスプリットポイントを調整することでスプリットを作成できます。 また、このページでは次の4つの専用機能があります。

- Back (左に折れ曲がった矢印):1つ前のページに戻ります。
- Edit Part 1 (ペンシルアイコンと P1): パート1のパラメーターをエディットします。
- Edit Part 2 (ペンシルアイコンと P2): パート2のパラメーターをエディットします。
- Remove Part 2 (X P2): パート2を削除します。

5.6.3. パートメニュー内でのエディット

Edit Part 1 または Edit Part 2 アイコンの下のボタンを押すと、そのパートのパラメーターをエディット できます。



- Back (左に折れ曲がった矢印):1つ前のページに戻ります。
- Replace Part 1 または Part 2 (四角囲みの矢印と P1 または P2):パートメニューを入れ替えます。
- Octave (Oct):そのパートのオクターブを変更します。
- MIDI Channel (Chan): そのパートの MIDI チャンネルを設定します。

5.6.3.1. パートメニューを入れ替える



このメニューでは、プリセットのどちらかのパートのみをロードすることができます。次の4つのオプシ ョンがあります:

- Types:タイプメニューに入ります。
- パート有効(チェックマークとP1/2)またはパート削除(X P1/2):パートを有効にするか、パートを削除します(プリセットをロードしていない場合)。
- **上方向にブラウズ** (上向き矢印):プリセットリストを前方にスクロールし、プリセットをロ ードします。
- **下方向にブラウズ** (下向き矢印):プリセットリストを後方にスクロールし、プリセットをロ ードします。

! メインエンコーダーをクリックしてもプリセットをロードできます。プリセットをロードするとその音を聴けます。

特定のパートのパラメーターをコントロールすることができます。

コントロールするパートを選択するには、Part ボタンを短く押します。この操作でパート1とパート2が 切り替わります。

ボタンを3回クリックすると "マスター" パートに戻ります。

A-8 Rock Unison

⊙ Controlling Part 1

Types 🕑 P1 \land 🗸 🗸

ディスプレイには次の4つのオプションが表示されます:

- Types:タイプリストに移動します。
- Replace Part: パート1とパート2を入れ替えます。
- **上方向にブラウズ**:プリセットリストを前方にスクロールし、プリセットをロードします。
- 下方向にブラウズ:プリセットリストを後方にスクロールし、プリセットをロードします。

6. DAW CONTROL

KeyLab Essential は、すべての主要な DAW (デジタルオーディオワークステーション) ソフトウェアのコ ントロールに対応しています。KeyLab Essential に直接統合できる DAW もあれば、広く普及している Mackie Control Universal (MCU) や Human User Interface (HUI) プロトコル経由でコントロールできる DAW もあります。

DAW ごとに特有の機能はありますが、KeyLab Essential でコントロールできる機能には、トラックの選 択と録音待機状態のオン/オフ、タイムラインのスクロール、トラックボリュームやセンド、パンの調 整、プラグインのパラメーター調整のほか、DAW トランスポートコントロールセンターで録音や再生な どのトランスポートの操作も可能です。

6.1. Custom Controlled DAWs - 対応 DAW

このセクションでは、KeyLab Essential に完全統合できる DAW でどんなコントロールが行えるかとい う、一般的な情報をご紹介します。



Cubase に KeyLab Essential を統合した状態

各 DAW の詳細につきましては、その DAW を対象としたユーザーガイドをご覧ください。

ユーザーガイドは、KeyLab Essential のリソースページからダウンロードできます。

KeyLab Essential の DAW コントロールモードに入るには、ディスプレイに "**DAWs Program**" と表示さ れるまで **Prog** ボタンを数回押します。これで以下の対応 DAW をリモートコントロールできるようにな ります:

- Ableton Live
- Bitwig Studio
- Apple Logic Pro
- Image-Line FL Studio
- Steinberg Cubase

上記の DAW のいずれかをお使いの場合は、KeyLab Essential 用の DAW スクリプトを手動でインストー ルする必要がある場合があります。お使いの DAW を最新バージョンにアップデートすると、KeyLab Essential を自動で認識するようになり、DAW をスムーズにコントロールすることができるようになりま す。

!説明:KeyLab Essential では、どの DAW でもループのオン/オフ、停止、再生、録音の操作ができます。今後、 完全統合する DAW を増やしていく予定ですが、それまでの間は MIDI Control Center で同様のコントロール機能を作 成することで対応できます。 **DAWs Program** にセットすると、KeyLab Essential が DAW を自動認識し、お使いの DAW に接続しま す。DAW を認識しない場合は、お使いの DAW の MIDI 設定をチェックし、DAW が最新バージョンかどう かをご確認ください。

それでも KeyLab Essential が DAW を認識しない場合は、お使いの DAW のマニュアルのインストール関 連やトラブルシューティングの項目をご覧ください。

!ホールドやコード、アルペジエイター、トランスポーズなど、その他の KeyLab Essential の各種機能は、もちろ んどんな DAW でも使用できます。

6.1.1. トランスポートコントロール



KeyLab Essential が DAW モードに入ると、ディスプレイの左側にある6つのトランスポートボタンで DAW のトランスポートとメトロノーム、タップテンポの操作ができます。この機能は、対応 DAW のすべ てで共通して使用できます。

パッド	機能	ディスプレイ
1	ループモードのオン/オフ	Loop Mode ON/OFF
2	早戻し	DAW を早戻しします
3	早送り	DAW を早送りします
4	メトロノーム	DAW のメトロノームのオン/オフ
5	停止	PLAY アイコンが左下に表示されます
6	再生/一時停止	左下の PLAY アイコンが非表示になります
7	録音	Record アイコンが左上に表示されます
8	タップテンポ	このパッドをタップすると Tap Tempo XX BPM と表示されます

上記機能を使用すると、上図のようにそのボタンがより明るく点灯します。

上記機能のほかに、5つの対応 DAW ではその DAW に特有の様々な機能があります。詳しくは DAW のマニュアルをご覧ください。

6.2. Mackie Control Universal で DAW をコントロールする

KeyLab Essential の発売時点でカスタムスクリプトがない DAW は、Mackie Control Universal (MCU) または Human User Interface (HUI) プロトコルを使ってコントロールすることができます。

仕様上、KeyLab Essential は特定の問題を回避するために MCU や HUI プロトコルをデフォルト設定では 出力しません。これらのプロトコルを使用する際には、MIDI Control Center ソフトウェアでプロトコル を有効にする必要がります。

MCU の設定は DAW によって異なりますので、詳細はお使いの DAW のマニュアル等をご覧ください。で すが一般的には、次のような手順になるかと思います:

- DAW の MIDI 設定の MIDI 入力ポートで *KeyLab Essential (49/61) mk3 MCU/HUI* をオンにします。
- お使いの DAW の "コントロールサーフェス" 設定がある場合は、そこで Mackie Control を追加設定します。

7. ソフトウェア・ライセンス契約

ライセンシー料 (お客様が支払ったアートリア製品代金の一部) により、アートリア社はライセンサーとしてお客様 (被ライセンサー) にソフトウェアのコピーを使用する非独占的な権利を付与いたします。

ソフトウェアのすべての知的所有権は、アートリア社 (以下アートリア) に帰属します。アートリアは、本 契約に示す契約の条件に従ってソフトウェアをコピー、ダウンロード、インストールをし、使用すること を許諾します。

本製品は不正コピーからの保護を目的としプロダクト・アクティベーションを含みます。OEM ソフトウェアの使用はレジストレーション完了後にのみ可能となります。

インターネット接続は、アクティベーション・プロセスの間に必要となります。ソフトウェアのエンドユ ーザーによる使用の契約条件は下記の通りとなります。ソフトウェアをコンピューター上にインストール することによってこれらの条件に同意したものとみなします。慎重に以下の各条項をお読みください。こ れらの条件を承認できない場合にはソフトウェアのインストールを行わないでください。この場合、本製 品(すべての書類、ハードウェアを含む破損していないパッケージ)を、購入日から30日以内にご購入いた だいた販売店へ返品して払い戻しを受けてください。

1. ソフトウェアの所有権 お客様はソフトウェアが記録またはインストールされた媒体の所有権を有しま す。アートリアはディスクに記録されたソフトウェアならびに複製に伴って存在するいかなるメディア及 び形式で記録されるソフトウェアのすべての所有権を有します。この許諾契約ではオリジナルのソフトウ ェアそのものを販売するものではありません。

2. 譲渡の制限 お客様はソフトウェアを譲渡、レンタル、リース、転売、サブライセンス、貸与などの行為を、アートリアへの書面による許諾無しに行うことは出来ません。また、譲渡等によってソフトウェアを取得した場合も、この契約の条件と権限に従うことになります。本ソフトウェアをネットワーク上で使用することは、同時期に複数のプログラムが使用される可能性がある場合、違法となります。お客様は、本ソフトウェアのバックアップコピーを作成する権利がありますが、保存目的以外に使用することはできません。本契約で指定され、制限された権限以外のソフトウェアの使用にかかる権利や興味を持たないものとします。アートリアは、ソフトウェアの使用に関して全ての権利を与えていないものとします。

3. ソフトウェアのアクティベーション アートリアは、ソフトウェアの違法コピーからソフトウェアを保 護するためのライセンス・コントロールとして OEM ソフトウェアによる強制アクティベーションと強制 レジストレーションを使用する場合があります。本契約の条項、条件に同意しない限りソフトウェアは動 作しません。このような場合には、ソフトウェアを含む製品は、正当な理由があれば、購入後30日以内 であれば返金される場合があります。本条項11に関連する主張は適用されません。

4. 製品登録後のサポート、アップグレード、レジストレーション、アップデート 製品登録後は、以下の サポート・アップグレード、アップデートを受けることができます。新バージョン発表後1年間は、新バ ージョンおよび前バージョンのみサポートを提供します。アートリアは、サポート (ホットライン、ウェ ブでのフォーラムなど) の体制や方法をアップデート、アップグレードのためにいつでも変更し、部分 的、または完全に改正することができます。製品登録は、アクティベーション・プロセス中、または後に インターネットを介していつでも行うことができます。このプロセスにおいて、上記の指定された目的の ために個人データの保管、及び使用(氏名、住所、メール・アドレス、ライセンス・データなど)に同意 するよう求められます。アートリアは、サポートの目的、アップグレードの検証のために特定の代理店、 またはこれらの従事する第三者にこれらのデータを転送する場合があります。

5. 使用の制限 ソフトウェアは通常、数種類のファイルでソフトウェアの全機能が動作する構成になって います。ソフトウェアは単体で使用できる場合もあります。また、複数のファイル等で構成されている場 合、必ずしもそのすべてを使用したりインストールしたりする必要はありません。お客様は、ソフトウェ アおよびその付随物を何らかの方法で改ざんすることはできません。また、その結果として新たな製品と することもできません。再配布や転売を目的としてソフトウェアそのものおよびその構成を改ざんするす ることはできません。 6. 権利の譲渡と著作権 お客様は、本ソフトウェアを使用するすべての権利を他の人に譲渡することができます。以下の条件を満たすことを条件とします。(a) お客様は、他の人に以下を譲渡します。(i) 本契約および(ii) 本ソフトウェアとともに提供され、同梱され、またはプリインストールされたソフトウェアまたはハードウェア、本ソフトウェアに関するアップデートまたはアップグレードの権利を付与したすべてのコピー、アップグレード、アップデート、バックアップコピーおよび旧バージョンを含む。(b) お客様が本ソフトウェアのアップグレード、アップデート、バックアップコピーおよび旧バージョンを保持していないこと。(c) 受領者が本契約の条件に同意していること。(c) 受領者が、本契約の条件およびお客様が有効なソフトウェアライセンスを取得した際のその他の規定を受け入れること。

本契約の条件に同意しなかったことによる製品の返却(製品のアクティベーションなど)は、権利譲渡 後はできません。権利を譲渡した場合、製品の返却はできません。また、ソフトウェア及びマニュアル、 パッケージなどの付随物には著作権があります。ソフトウェアの改ざん、統合、合併などを含む不正な複 製と、付随物の複製は固く禁じます。このような不法複製がもたらす著作権侵害等のすべての責任は、お 客様が負うものとします。

7. アップグレードとアップデート ソフトウェアのアップグレード、およびアップデートを行う場合、当該ソフトウェアの旧バージョンまたは下位パージョンの有効なライセンスを所有している必要があります。第三者にこのソフトウェアの前バージョンや下位パージョンを譲渡した場合、ソフトウェアのアップグレード、アップデートを行う権利を失効するものとします。アップグレードおよび最新版の取得は、ソフトウェアの新たな権利を授けるものではありません。前バージョンおよび下位バージョンのサポートの権利は、最新版のインストールを行った時点で失効するものとします。

8. 限定保証 アートリアは通常の使用下において、購入日より30日間、ソフトウェアが記録されたディス クに瑕疵がないことを保証します。購入日については、領収書の日付をもって購入日の証明といたしま す。ソフトウェアのすべての黙示保証についても、購入日より30日間に制限されます。黙示の保証の存続 期間に関する制限が認められない地域においては、上記の制限事項が適用されない場合があります。アー トリアは、すべてのプログラムおよび付随物が述べる内容について、いかなる場合も保証しません。プロ グラムの性能、品質によるすべての危険性はお客様のみが負担します。プログラムに瑕疵があると判明し た場合、お客様が、すべてのサービス、修理または修正に要する全費用を負担します。

9. 賠償 アートリアが提供する補償はアートリアの選択により (a) 購入代金の返金 (b) ディスクの交換のい ずれかになります。お客様がこの補償を受けるためには、アートリアにソフトウェア購入時の領収書をそ えて商品を返却するものとします。この補償はソフトウェアの悪用、改ざん、誤用または事故に起因する 場合には無効となります。交換されたソフトウェアの補償期間は、最初のソフトウェアの補償期間か30 日間のどちらか長いほうになります。

10. その他の保証の免責 上記の保証はその他すべての保証に代わるもので、黙示の保証および商品性、特定の目的についての適合性を含み、これに限られません。アートリアまたは販売代理店等の代表者または スタッフによる、口頭もしくは書面による情報または助言の一切は、あらたな保証を行なったり、保証の 範囲を広げるものではありません。

11. 付随する損害賠償の制限 アートリアは、この商品の使用または使用不可に起因する直接的および間接 的な損害(業務の中断、損失、その他の商業的損害なども含む)について、アートリアが当該損害を示唆し ていた場合においても、一切の責任を負いません。地域により、黙示保証期間の限定、間接的または付随 的損害に対する責任の排除について認めていない場合があり、上記の限定保証が適用されない場合があり ます。本限定保証は、お客様に特別な法的権利を付与するものですが、地域によりその他の権利も行使す ることができます。

8.1. FCC

警告:本製品を改造しないでください!

Arturia 社および輸入代理店による承認がない本製品のいかなる改造やその他の変更を行った場合は、本 製品を使用するユーザーの権限が無効になることがあります。

本製品は、FCC 規則第15章に準拠しています。本製品は、以下の2つの条件、(1)本製品は有害な干渉を 引き起こさないこと、(2)本製品は、望ましくない動作を引き起こす可能性がある干渉を含め、受信した あらゆる干渉を受け入れなければならいこと、に従って動作します。

アメリカ合衆国における担当機関: Zedra, 185 Alewife Brook Parkway, #210, Cambridge, MA 02138, United States T: +1 857 285 5953

商号:ARTURIA、製品番号:KeyLab Essential mk3

注意:本製品は、FCC規則第15章に従ってクラスBデジタル機器の規制値に適合していることが試験によ り確認されています。この各種規制値は、本製品を一般家庭で使用する際に生じる有害な障害に対して合 理的な保護となるよう策定されています。本製品は、無声周波数帯域のエネルギーを発生し、使用し、放 射することがあります。また、本製品のユーザーズ・マニュアルに従わずに本製品を設置し、使用した場 合は、他の電子機器に有害な干渉を及ぼす原因となる場合があります。本製品の電源をオンにしたりオフ にしたりすることで、本製品がそのような有害な干渉を及ぼす原因であると確認された場合には、次のよ うに対処してください:

- 受信アンテナの位置を変更する、またはアンテナの向きを変える。
- 本製品と干渉の影響を受けている機器との距離を広げる。
- 本製品と干渉の影響を受けている機器のコンセントを別の系統に分ける。
- 本製品の購入店、またはラジオ/テレビ等電波機器の技術者にご相談ください。

8.2. カナダ

本製品は、カナダでのEMC規制 ICES-003 に適合したクラス B デジタル機器です。

Cet appareil numérique de la classe B est conforme à la norme NMB-003 du Canada

8.3. CE

本製品は、電磁両立性に関する加盟各国の法律に近似する欧州理事会の EMC 指令 2014/30/EU、および 低電圧指令 2014/35/EU の規制値に適合していることが試験により確認されています。

本製品は、鉛フリーはんだを用いて製造されており、ROHS 指令 2011/65/EU の要求事項を満たしています。



このマークは、電気・電子機器の廃棄時に、一般家庭用廃棄物として処分してはならないことを示すもの です。本製品は、国内法および指令 2012/19/EU (WEEE:電気・電子機器廃棄物に関する指令) に従っ て、適切な処理、回収、リサイクルを行うために、電気・電子機器のリサイクル用回収拠点に引き渡す必 要があります。

これらの製品の回収場所やリサイクルにつきましては、お住まいの地域の自治体、家庭ごみ処理業者、または製品を購入された販売店にお問い合わせください。